

2023年4月19日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 開幕戦岡山、殊勲の8位フィニッシュ！ ～ベストメカニック・ZFアワード受賞～



SUPER GT 第1戦岡山レポート

2023 SUPER GT 第1戦「OKAYAMA GT 300km RACE」(4/15-16)

岡山国際サーキット(1周3.703km)

入場者数：予選7,800名、決勝14,500名 合計22,300名

4月16日（日）、今季開幕戦となるSUPER GT第1戦「OKAYAMA GT 300km RACE」の決勝が行われ、DENSO KOBELCO SARD GR Supraは、トップタイムをマークした公式練習走行中の激しいクラッシュから何とか決勝日の朝までに修復し、GT500クラスの最後尾からスタート。雨が激しく降ったり止んだりでフルコースイエロー（FCY）やセーフティカー（SC）導入、そして赤旗中断などが幾度もあり非常に荒れて混乱する中で、落ち着いたレースを展開。着実にポジションアップを果たし、スタートから7つ順位を上げる殊勲の8位フィニッシュ。

ドライバーポイントは3点を獲得、チームポイントは6点を獲得し、ともにランキング8位。またメカニックの頑張りにも栄えある、ZFアワードを受賞した。クラッシュで予選出走できずと波乱の幕開けとなったが、応援して頂いた皆様やご協力して頂いた皆様のおかげで挫けず最後まで諦めない気持ちで決勝出走までたどり着き、殊勲の結果を得られたことはチームとしての強さを増した2023年シーズンの開幕となった。

■ 事前情報

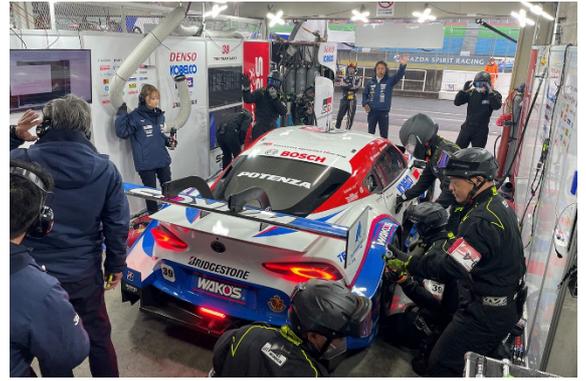
週末、いよいよ2023年シーズン開幕を迎える。2年目のコンビとなる関口雄飛選手と中山雄一選手。4シーズン目の指揮を執る脇阪寿一監督。そして、今季新体制で強化を図ったエンジニアリング/メカニック体制。オフシーズンテストでコミュニケーションを重視してチームとして一体感とレベルを上げ厚みも増し、より堅強となった。シーズン前の各テストではロングランでペース良く、データ蓄積を重視して実戦的な取り組みを積み重ねてきたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。チームメンバー全員がこれまで地道な準備を続けてきており、高まる期待を感じる今季の開幕戦。



舞台となるのは岡山県東部の山間部・美作市にある岡山国際サーキット。4月15日（土）午前公式練習、午後ノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、16日（日）決勝は13時30分スタートの300km（82周：約2時間）で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付け。サクセスウェイトは各車とも0kgのノーウェイトの真っ向勝負となる。岡山国際サーキットは過去にF1も開催され「ミニモナコ」とも呼ばれたこともある中低速中心のテクニカルコース。1周約3.7kmとコース距離が短くコース幅も狭く、スリリングなパッシングシーンが手の届きそうな目の前で見られ、迫力と興奮が味わえるサーキット。また感染予防対策として昨年まで行われてきた様々な規制が緩和され場内イベントも多数予定されて、サーキットの賑わいも戻ってくる。昨年同大会では決勝こそ不具合で順位を落としたが予選で2位と気を吐いたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。脇阪寿一監督のもと、チーム一丸となって開幕ダッシュを決めるべく、勇猛果敢に勢い良く勝利を目指していった。

■公式練習走行

15日（土）9時10分から開始された公式練習走行は、開始から次第に雨が激しく降り、気温13度/路面温度14度のコンディション。難しい状況の中で関口が7周目に1分31秒164のトップタイムを早々に叩き出す。のちにGTAのインタビューに関口は、「走りはじめはタイヤが温まってくかった。硬めのタイヤを選んでコースインしたので、走るごとにタイヤが温まってきてグリップするようになるとタイムも感触も良くなってきた。ただ、この時点ではタイムを出すことが目的ではなかったので走りながらクルマのセットに若干の不満もあったのでセッティングも変えたかったし、時間にも限りがあるのでピットに戻ることにした。そんな中、インラップでもセクターベストで来ていたので、もしそのまま走っていたら更にタイムは出せたと思う。その後、セットを変えて反応を見たが、あまりうまくいなくて……。雨がさらに強くなってきて明日の決勝でも雨になる可能性もあると考え、走れるうちに感触をわかってもらうため中山と交代をリクエストしました」と答えている。



11周目から中山雄一選手と交代。雨量が更に多くなりコンディションが悪化していく中、13周目1コーナーでスピン。問題ないとのことで行方を続けた14周目、モスエスT4の緩やかながら高速S字区間の左から右への切り返し区間で、川のように流れている雨の状況に足元をすくわれスピン。そのまま減速せずに横に滑ったままコースオフ。スポンジバリアにヒットした直後にクルマが回転しながら舞い上がる激しいクラッシュとなり、クルマが大きな損傷を受けて万事休す。レスキューに救助された中山は自力で歩いたが、そのまま救急車に乗せられてメディカルチェックを受けることに。幸い中山には怪我なく、そのほか障害もなく、ドクターから次の走行の出走許可も得られるほど。車両については残念ながら公式予選までに修復ならずとなった。



決勝へ向けて、必ずやグリッドにクルマを並べるべく、大阪トヨペットLM Corsaチームほか大勢の温かい援助や差入れを受けつつ、協阪監督自らルーフのマーキングをかってでるなど、全員野球でチームメンバーによる懸命な修復作業が決勝日朝の6時まで続くこととなった。



■決勝

■ウォームアップ走行

16日（日）12時から開始された20分間のウォームアップ走行は気温19度/路面温度29度の晴れ。朝6時に修復を完了させたDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、まず中山がドライタイヤのハード側とソフト側をベディング。続いて別のハード側を装着して3周走行して関口と交代。クルマの状況を確認しながらチェッカーまで走行した。ウォームアップはトータル11周を走行。10周目に関口のマークした1分20秒828で8番手タイムをマーク。修復したクルマは、走行に問題ないことも確認された。

■決勝レース

第1スティント：関口が波乱の中で大事にクルマを運ぶ走り

16日（日）13時30分決勝スタート時点は、晴れていたがどんよりとした雨雲が近づきつつあり、パラパラ雨が落ち、これからの混乱を予感させる。気温19度/路面温度30度のコンディションの中、パレードラン、フォーメーションラップの後、いよいよ開幕戦決勝がスタート。整然とした隊列の後方からの逆襲を目指していたDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、スタート担当の関口が落ち着いた走りで無理せず大事にクルマを運んでいく戦い振り。300クラスをラップダウンする頃になると雨粒が大きくなりスピン車両も増え、15周目にウェットタイヤに交換すべくピットイン。素早く戦列に戻るとFCYからのSCが導入され、この時点で



11位にポジションアップしてみせた。レース再開後も丁寧に落ち着いた走りを続ける関口。スタート前に「懸命に修復してくれて気持ちのこもったこのクルマをまずは完走させます」と語っていた関口。戦況を見ながら着実にポジションを上げていった。40周を超えるとドライタイヤでも走れそうなコンディションになっていき43周目に中山と交代すべく、関口を再びピットに呼び戻した。

第2スティント：中山が挽回みせる走りで8位フィニッシュ

素早いピットワークで中山を送り出す。ここでも一段落すると9位にポジションアップしてみせたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。48周目には2回目のFCYが導入。雨も再び強く降り始めてしまい、そのまま2回目のSCが導入。さらにSCラン中に近隣に落雷があったため、レースは55周目に入ったところで赤旗、レース中断となってしまう。午後3時35分にSC先導で再開。56周目再開と同時にドライタイヤで走行していた中山も含め多くの車両がピットインし、ピットロードは大混乱となった。SC隊列はそのまま続き、61周目に入ったところでコースアウト車両があり2回目の赤旗中断。午後4時20分に再びSC先導で走行を再開したが、63周目に入ったところで3回目の赤旗が出され、これをもってレースを終了となった。結果、波乱と混乱で荒れに荒れまくった開幕戦はスタートから7つ順位を上げる殊勲の8位フィニッシュとなった。



ドライバーポイントは3点を獲得、チームポイントは6点を獲得し、ともにランキング8位。またメカニックの頑張りにも栄えある、ZFアワードを受賞した。クラッシュで予選出走できずと波乱の幕開けとなったが、応援して頂いた皆様やご協力して頂いた皆様のおかげで挫けず最後まで諦めない気持ちで決勝出走までたどり着き、殊勲の結果を得られたことはチームとしての強さを増した2023年シーズンの開幕となった。

■関口 雄飛



「公式練習走行でのアクシデントから、チームが徹夜で車両を修復してくれて最後尾スタートから8位でゴール。雨が降ったり止んだりの難しいコンディションでFCYやSCもあって開幕戦はとても荒れた展開になりましたが、自分たちは、最後までしっかりと生き残り、ポイントを獲得できました。チームに感謝です。応援していただいた皆さんのためにも、次戦富士で大活躍できるように頑張ります」

■中山 雄一



「公式練習でのクラッシュで、ご心配とご迷惑をおかけしてしまい、すみませんでした。リアから突如滑り出し、なすすべなくコースアウトしてしまいました。クラッシュパッドと車両が衝撃を吸収してくれましたので、身体は無事でした。クルマを決勝日の朝6時までかかって直していただき、チームスタッフ、寿一監督から近藤代表まで、本当に感謝してもしきれません。荒れたレースで無事完走とポイントまで獲得できたことは、本当に良かったです。次戦はスーブラのホームコースですから予選から決勝まで存在感を表し、優勝をしたいと思います。逆襲です！！」

■監督 脇阪 寿一



「土曜の走り始めトップタイムからの大クラッシュ。文字通り天国から地獄に叩き落とされた開幕戦。たくさんの方々の温かみに触れ獲得した8位入賞。レース後、徹夜でクルマを復活させた事に対してZFアワードを受賞しました。選んで頂いた皆さま、ありがとうございました。メカニックの皆さん、おめでとう！荒れたレースで確実に走り切り、ポイントを獲得できた事は非常に嬉しく思います。メカニック、チームスタッフの皆さん、ドライバー二人、本当によく頑張ってくれました。応援頂いた皆様、ありがとうございました。我々はこの2日間で間違いなく強くなりました。これから成長していくその先でも我々はこの2日間を決して忘れることはないでしょう」



Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	SW
1	23	MOTUL AUTECH Z	松田 次生/R. クインタレツリ	* 1'27.860	0
2	3	Niterra MOTUL Z	千代 勝正/高星 明誠	* 1'29.035	0
3	64	Modulo NSX-GT	伊沢 拓也/太田 格之進	* 1'29.347	0
-	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	DNS	0

天候：曇り、コース：ウエット、Timeの*はQ2ベスト

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	23	MOTUL AUTECH Z	松田 次生/R. クインタレツリ	2:44'47.342	61
2	3	Niterra MOTUL Z	千代 勝正/高星 明誠	+1.496	61
3	8	ARTA MUGEN NSX-GT	野尻 智紀/大湯 都史樹	+4.788	61
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	+24.977	61

天候：曇/雨、コース：ドライ/ウエット、3.703km×62Laps、正式結果は61Laps時点の順位で決定。

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	23	松田/クインタレツリ	21
2	3	千代/高星	15
3	8	野尻/大湯	11
8	39	関口/中山	3

Point standings after Rd.1

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	23	NISMO	23
2	3	NDDP RACING	18
3	8	ARTA	14
8	39	TGR TEAM SARD	6

Point standings after Rd.1

Partners



情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SARD YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtoorFaF5FVA>
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp